



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

☆ご自由にお持ちください☆

放射線だより

from Radiation House

2022年9月
No.3 (隔月発行)
担当：馬場俊明

CTの線量管理の目安として
CTDIvolと**DLP**という単位があります。

診断に対して撮影線量が適切かどうか、
「診断参考レベル(DRLs 2020)」の利用が推奨されています。

診断参考レベル (DRLs 2020)

	CTDIvol [mGy]	DLP [mGy・cm]
胸部	13	510

当院の胸部CTの被ばく線量(平均)

対象：当院で撮影した50~70kgの患者さん
期間：直近3ヶ月

	2022.6月	7月	8月
CTDIvol	6.7	6.4	6.6
DLP	258.6	254.4	257.1

当院の胸部CTの撮影線量は診断参考レベルより低いことが分かります。
今後も他部位も含め、被ばく線量の最適化に努めていきます。
何か不安なことやわからないことがあれば、診療放射線技師までお尋ねください。

※DRLsは超えてはいけない値ではありません。

体型や検査によっては超える可能性もあります。 (文責：川久保)

一般撮影検査を受けられる方へ

一般撮影検査は、X線（レントゲン）を用いて胸部、腹部や骨などを撮影する検査のことです。一般撮影はCTやMRIに比べて簡便かつ迅速に全体像を知ることができるため、第一選択として最も頻度の高い検査です。

メガネ、ネックレス、ピアス、補聴器、入れ歯、ブラジャー、ボタン、湿布、カイロ、エレキバン、服のプリント、チャックなど、画像に写りこんでしまうものがあると診断に支障をきたす恐れがあるため外していただきます。

また、撮影する部位によっては検査着に着替えていただく場合があります。

円滑な検査のため、事前に撮影部位にボタン、金具等がないようにご協力をお願いします。



Q 撮影することによって、放射線による影響はありますか？

A 一般撮影での放射線の量は少なく、健康に影響を及ぼすほどの被ばくはありません。撮影部位によって必要最小限の撮影枚数を医師が判断して検査を行っております。安心して検査をお受けください。

Q 妊娠している（妊娠の可能性がある）ときに検査を受けても大丈夫ですか？

A 一般撮影検査での放射線の量では胎児に影響を及ぼさないことが確認されています。しかしながら、妊娠中や妊娠の可能性のある場合はより検査の必要性を考慮する必要があるため、必ず検査を受ける前に医師に相談してください。

文責：加藤